朝文庫10
7387
5

横濱新報

ふしぎ

第五編

九十三番

ウエンリード

K.S.ASOM

定價壹文

特 文庫10
7387
5

雜藻鄙實録

第五篇

ウエンジイ
六十三番

慶應四年戊辰閏四月廿四日

KASASOM
宝賢壹

横濱新報

○滑耀先生日記のつゞき

二十一日

關東勢三千餘人にて壬生城をとりかこみ軍使を以て譜代德川家の屬しなゞら東照宮御旗へ敵對せし罪ゆるし難く速に降人とすべく城をひらきさるべきやといたせければ城主はなほ官軍の屬せんのこゝろいなりとして一方をとりかけて古河の方にぬけゆき井伊藤堂の兵と一戰になんといふの弟なにがしの關東方の味方せん

帝國圖書館藏

こゝく兄弟ありけるそひに時うつりるが攻手い
十分に隊伍をこゝ折へまちかまへる折しも其日
其日の八ツ時こゝう合戦もゝ海り出きに大
砲を打このけるほどに城の内外いちとゐ火焔とゐり
けるバあちこちにこといちんこのたゝし城兵ハたゝ
いんとするめきくたゞ烟ゐまぎれておちゆく
ものぞおほかりまるかくて夜九ツ時ものうに
城主二百人ばかりの兵をひきるくて方をきうぬき
南をはしてあちゆにまるゞ關東勢も追欠ル
せざりけり

二十二日

關東勢手生城を乗取く點檢しまるに武器
兵粮玉藥其外金銀等あほくきてあれてあげ
ばりけるそ

二十三日

官軍關宿に屯したる由をきく關東勢押寄
合戦ありしにても官軍利なくして中田の方へ
引退きぬ

二十四日

勝に乗たる關東勢なるバ未明より軍馬を整へ

中山宿へおしよせけるゆへ官軍も嚴重ニ備へ
を待こうけあり九時まへより たゝかひちゝ
ごろいまゝ勝負つかえざりける處ニ大村肥後守
のうぐぎりふく官軍おほひに敗走ちりける

二十五日

官軍はやそろ中甲驛ニ陣取たり關東勢もけふハ
たゝかうゝまあふくそ日をくらしける
○今日信州飯山へ會津勢五百人計おしよせて
尾州の兵と合戰ちりしこの米澤庄内ちりかけて
加勢の兵を出したりける已ハ會津方勝利の由

○今日平尾ふく官軍ニ生捕られる近藤勇
を死刑に行ひ其首を京師ニ送る

二十六日

官軍いやまを中田に陣取居うきのふけふそと
たゝかうちまりし關東勢へくそりる人數
い南部上杉水戸會津の兵たゝかひ手生大村
降參の人等都合二千七百人とぞきこえし

二十七日

關東勢評議しるいろまぐれたゝこのふてゐ
たりうと際限ちる海ぶけふの風雨をさのそひ

に官軍を襲撃せんといふとなりけれバ諸将是に
同じくいざけふバ用意せよとて其日の午の
刻ばかりに中田宿におしよせときをどつと
つくりたりけるをりふし風雨はげしく官軍
方向ひの岸なりけれバさんざんに打立られども
ものゝふほどあるものにてさわぎもせず會津勢ハ
二百人程射手をそろへてさんぐに射立ける
間より一番鎗奥州會津の住人鹿島傳藏と
なのり風雨をおかし弥に来り大身の鎗にて
藤堂の先陣へ突てかゝりしハ藤堂家の部将

山田勘右衛門なのりいかせてかゝりたゝかひ
しが鹿島が杖やまさりけん忽に突き伏
られたりされどもなほ藤堂仁右衛門西をさして
逃出しけるが水戸の旧臣内田新吾が矢にて射
殺されたり先手の兵ども大将一人を射殺され
てなかなか以てたまるべきわざならばこそにげ出し
されバ二陣にそなへし島津重二郎同主水石倉
三右衛門等人数九十余人一度にどつとおしよせ
ければ關東勢ハたまらず引退て小高き岡の上に
のぼり精兵をそろへてさんぐに射立ければ

重一郎はじめ九人の者あまたにて討死す後陣にそなへし因州勢大の道をいそぎ戰ひあぐべ敗走せんとりりいざやいそきい是まぐなるぞとて中の刻ばかりに士卒まことあく引退きあるこの關東勢にてる手負五十餘人討死八人生捕分取おびただしくありしるべし

廿八日より出張八番次篇にあるべし 迫日

出板いそがしし

○浪華よりの来信に云閏四月七日ふみのど京都へ還幸ましくけるされども市中いさもしくも なるべたで内外商人ことにのきなひはたく あしらで大筒洋鎗火藥などいとくさだるる事にて日本人もたまごのうかひしてもこのまゝ なべ横濱のもうにめんだうなることなり御一新の なりこのふなたばよとなはもかるる酒習ハあるべく 廢せらるべしなく外商等まこれをのぞあり

○十七日に法國の新ニストルよとなはふきまこと 法國の帝らのことを撰ぎ日本につのらしたまふ

山ちゑい現今日本ハ南北の亂あり然しとく日本の最おのんぞべき産物ハおのゝく北部の領地なり出るにより此人を日本につゝ〳〵のゝくゝ北部の諸侯に約して生糸と蠶種紙をおのゝく買しめんこうゝめなり

○十八日キウシユウとゝの火輪船にて五六百人の官兵を江戸におくれり

○をもうとゝ帆船一艘支那の香港ゝ錨泊しうり日本の籏をたゝくゝれば日本船なるべしもつ〳〵船將ハ西洋人なり

○十二日出の上海の書信きのふとゞけたりうちに日本雜貨の行情單なり、香蕈百斤ゝつ代三十兩ゝと三十二兩まで、海參上物四十四兩、次品三十二兩、鮑魚廿五兩より三十二兩まで、魷魚十二兩より十六兩迄、魚翅白三十兩、黑十六兩ぐらゐ、蝦米十二兩より十七兩まで、樟腦十四兩より二十兩、茯苓三兩より四兩、五倍子二兩より三兩、蘇木三兩ぐらゐ、杜丹皮十八兩、香帶壹兩より三兩まで、帶絲上物四兩、次物二兩ぐらゐ、とゝの壹兩と云ハ、洋銀壹枚三分五厘ほどにく、大抵日本乃金壹兩と同程なり、

○この出行する醫館にて瘍瘵で死ざひをを
ふるけ者より肺の臓ふ三つめで死をなりり一つハ
ぐりくの男にて まぐすて わて一つハうみふ
なりくぬる一つハ出ぐにくををにくなるに
なりたを

○關宿の城主久世侯の藩士南北両列ふ別れるが北部
ふ屬せる者四五十人深川伊勢崎町屋敷ふ在ありに
南方屬せる藩士官軍と共ふ去廿三日赤明深川邸ふ來り
談判く及びい処終ふ戦爭く相成り双方手負有之由

西垣文庫
特
文庫10
7387
5